

東京都新宿区 新宿せいが子ども園

第12回 成長展

今年度のテーマ「東京」

第106号 2019年3月18日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談やご要望に応えるコンシェルジュがいるように、保育においても様々なご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=ミマモルジュとして、保育に関するご要望にお応えしていくよう活動していきます。

株式会社カグヤ 奥山卓矢

「成長展」インタビュー

3月3日（土）新宿せいが子ども園にて、「成長展」という行事が行われ、全国から140名を超える先生方が見学に来られていました。

今回は、新宿せいが子ども園の西村先生に「成長展」の舞台裏について語って頂きました。

—「成長展」お疲れ様でした。今年のテーマは「東京」となり、知られざる東京を発見していきましょうとなっていましたが、テーマはどのように決めているのですか？

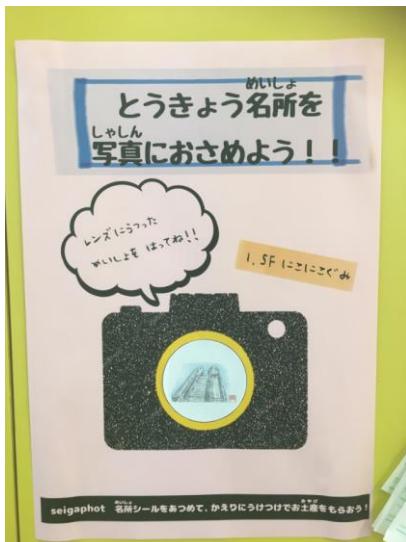
テーマは2年ごとに設定しており、サブテーマを1年ごとに変えています。今回は「地域」が大きなテーマになっています。サブテーマが昨年は「日本」。そして、今年は「東京」です。そして、来年のテーマは「新宿」で今回のテーマは異例の3年周期ということになります。

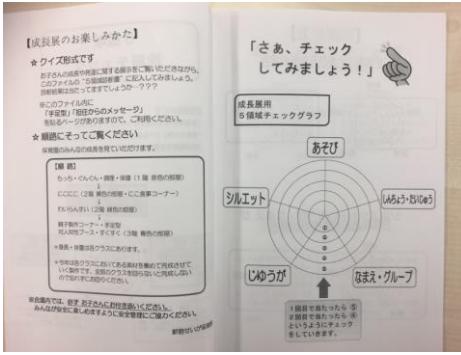
—園内のあちこちに、東京の名所を写真におさめよう！名所シールを集め、帰りに受付でお土産をもらおう！と掲示がされていましたね。

園長先生が書かれた絵をシールにして、名所シールを全部集めるとポストカードをお土産を持って帰れるようにしていました。

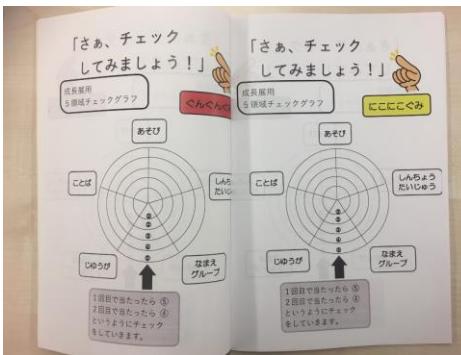
—毎回、遊び心が満載ですね！今回の「成長展」で工夫した点は、どんなところでしょうか？

まず一つが、保護者にお渡ししている冊子の中身を成長展係りで見直しました。これまで身長や体重、手形・足型、担任からのメッセージのページ





Before : 5 領域チェックグラフ



After : 5 領域チェックグラフ

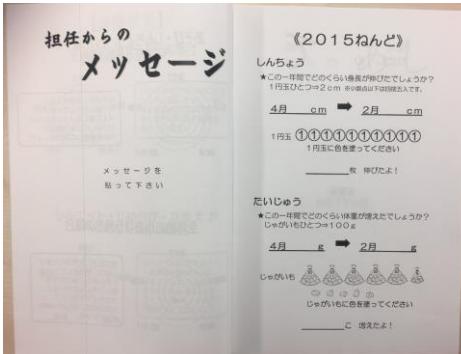
を設けていましたが、1年分の内容を記入するページでした。定員が増えたことも一つの要因ですが、毎年、新しい冊子を渡すのをやめて、1冊の冊子の中に進級することに身長や体重、手形・足型、担任からのメッセージを書き込めるようにページを設けることにしました。そのため、成長展が終わったら冊子を保護者から回収し、卒園の時に渡すようにしました。毎年印刷していた冊子の印刷数も減らすことができます。

—成長展で毎年の成長を感じ、卒業時にも成長を一層感じられる工夫ですね。今後は新入園児の保護者分だけ冊子を印刷すればいいんですね！

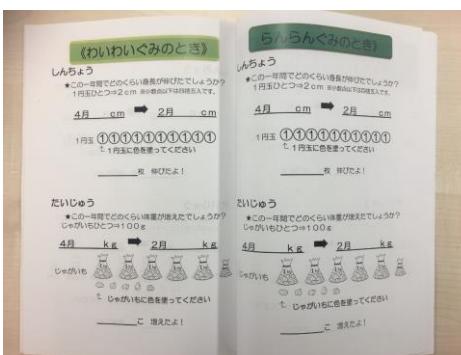
そうですね。子どもたちの作品に加えて今年から冊子も倉庫で保管していますが、数年前の定員増とこども園化により、これまで20名だった卒園児が32名になりました。成長展の0~5歳の全員分の作品を保管する場所も大変で、園の地下倉庫をある先生が大掃除をしました。「こんなに物が入るのか！」という位、綺麗に掃除してくれて、使い勝手もよくなり保管方法などを再考する機会になりました。

—今年から見学時間を午後に変更されましたか？どういった経緯があったのでしょうか？

昨年までは午前中の1時間ほどを保育関係者の見学時間としていました。そのため、職員も見学される方がいる中で準備をしていて、見学者の方にも「何かあったら、質問してくださいね！」と言っていても、準備をしている中では、見学者も質問しづらく、なかなか保護者に説明するようには、見学者の方にゆっくり説明が出来ていませんでした。また、保護者の見学時間がはじまるときにはお帰りいただくという流れでした。成長展係りの職員から、「保護者と対話するように、その意図を見学者に伝えたい！」ということで、今年から保育関係者の見学が午後になりました。



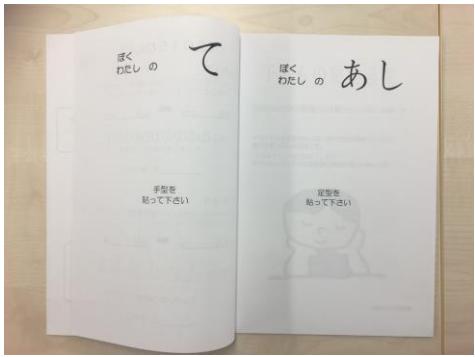
Before : 身長・体重のページ



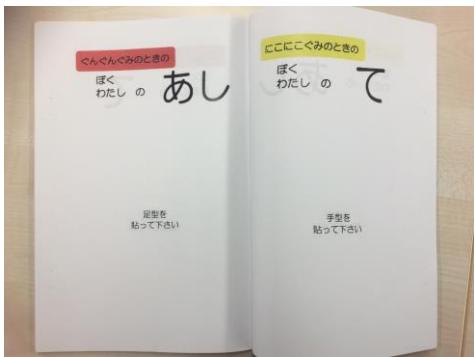
After : 身長・体重のページ

—成長展の係はどのように決めているのですか？

係りは各クラス（保健、調理、用務も含めて）から最低1名ずつ出ています。昨年の係が出した反省点をあげて、見直しをすることから始めます。どの行事もそうですが、振り返りは1週間以内に係りで行っています。職員には当日に反省用紙を配布し書いてもらったり、保護者からの声も次に活かしています。当日行う反省会では新人職員に感想を言ってもらうことが恒例となっており、また見学者の方が反省会に参加している場合にも感想を



Before : 手形・足形のページ



After : 手形・足形のページ



140名の先生方が成長展の見学に！

もらっています。最後に園長、副園長からも感想・反省をもらい、次年度にその反省を踏まえて活かしていきます。「成長展」の会議は4月から月1位の頻度で行っています。

—たくさんの方々が、せいがの職員の先生方と話をしていたのも印象的でした。見学者も140名を超えていたとお聞きし、「成長展」の注目の高さを感じます。

過去最高の見学者数で、保育環境セミナーの倍の人数が見学されました。

「成長展」を実践している園や、実践していきたい園が増えてきていることを感じます。運動会やお楽しみ会は見学に来られる方がいますが、夕涼み会を見てもらうことはあまりないですが、「成長展」の見学者数はすごいです。

—西村先生は他園の「成長展」を見学されたことはありますか？

他園の「成長展」を見て感じることは、シルエットや自由画、人物画、塗り絵、人間関係は指針を元にしているので変わりませんが、動画を工夫されてたり、臥竜塾セミナーに参加していた先生がいた園ということもあります。塾でお茶体験の場を設けている園がありましたが、普段の保育を見せる場としているのがいいなと思いました。成長展とお楽しみ会が混ざった形だったり、年間テーマがあると装飾に表現されていたり、園ごとの工夫を感じ学びになります。

—西村先生は「成長展」は何度目の経験になりますか？

5回目です。最初は何をするか分からず、園長先生に園を廻りながら前日に説明してもらいました。その経験があったので、今でもその目線で「成長展」を見れるようになりました。

—西村先生は「成長展」の準備はどのような役割をされているのですか？

毎年、手形・足形をしています。手形・足形は直前の2週間くらいで行い、早くても1ヶ月前くらいから準備をしています。身体測定はこの時期立て込み、休んだらその子だけ別で行ったり、日程変更して行っています。手形・足形を取ると子どもたちとも触れ合え、誕生日も覚えるようになりました。すいすいのあの子は何月生まれとか、今の4歳の子たちと園に同期で入って、誕生日を覚えています。手形・足形の大きさに合わせてハサミで切っていると成長を感じます。これらの仕事はクラス担任がやっていたので



「せいがチャンネル」
『会話の質』についての動画



調理師の先生方が作った手作りパン



10枚のビスケットを巡っての会話

ですが、定員が増えたことで、できることを僕ら用務もやっていこうということで、ここ3年くらいは僕らがやるようになりました。

—今回の「せいがチャンネル」も超大作でしたね！

成長展自体の準備もそうですが、動画が大きいです。どういう目線で動画を撮ればいいか、「会話の質」のことをわかっていないといけないですし、

「会話の質=量」ではないとか、園長先生が適宜修正してくれます。「会話の質」とは?と考え、その目線で子どものことを見ます。これまで「対人知性」や「共感」、「感情コントロール」など、毎年1年ごとにテーマを設け、1年間の中で試行錯誤し、1年通して研修になっています。共有サーバーにそれぞれの先生が撮ったデータをアップしています。その中から動画を編集して、藤森先生に観てもらいコメントを貰って、編集を繰り返しています。1年間、「会話の質」が頭の中にある感じです。成長展の準備をしながら、研修も兼ねているように感じます。

—いい保育をしないと、いい動画が撮れないんですね。「せいがチャンネル」を観終わったら、保育室が元通りに戻っていたことも驚かされました。見学者の方に展示の見学を先にして頂いて、3階でビデオを観てもらってたら、その間に片せるねと気づき、その間に片してしまって見学者を脅かせようとした！あとは、早く帰りたかったんでしょうね！（笑）

—30分ほどで、保育室が元通りになりました。保育室を片付けるに当たって、何か工夫されていることはありますか？

レイアウトはあまり変わっていないのですが、例えば移行に当たって、2歳のおもちゃをつまらなくしておいて345にいくとか、おもちゃなどを変えています。卒園式や夕涼み会などもそうですが、保育室を戻すときに掃除もやりやすく、行事の後片付けをしながら、次の準備をしています。

一片づけをしながら準備をしていたんですね！「成長展」の準備で何かほかに工夫されたことはありますか？

シルエットのぶら下げも早くなり、当日は貼物と移動だけです。クリップを当日やらない良かつたり、吊るし物が早くなっています。今まででは麻ひもでぶら下げ、ハンガーを使っていましたが、別の園長先生から「こういう



「会話の質」の表

「イヤーがあるよ」と教えてくれ、それを使うと、ハンガーもいらないし、クリップだけで吊れるようになりました。福岡県の保育園の先生が「成長展」の1週間前から実習に来ています、その準備の様子も見てもらいました。

— 「会話の質」が表になって掲載されていましたが、あの資料は何を示しているのでしょうか？

文部科学省の資料を元に会話の質を「聞く力」と「話す力」を表にして、うちの園の子どもたちの様子をまとめました。今は4階に貼ってあります。見学者が見られるようにしています。成長展で終わっても、研究的な資料などは残しています。見学案内をする時も、子どもの成長が載っているので、4月はこうで年末はこうで、そのために環境はこういうものが必要です、と説明する際にも活用しています。見学ではどうしても、その場面が切り取られるので、資料があるとその時の姿がどうであれ「見守れる姿」を目指していると言えます。

— 「会話の質」の表はどのように作られたのでしょうか？

「Xmind」アプリ（マインドマップ作成アプリ）にハマっている職員がいて、それを使って掲示しようとなりました。突拍子もない発想だとしても、言える雰囲気は大事だと思います。保護者にお渡しする冊子にしても、職員から意見があがったことで変わり、趣旨と違っていてもアイデアを出しやすい雰囲気は大切だと思います。

—先生方の工夫が毎回「成長展」を楽しいものにしているのですね。
たくさんのお話ありがとうございました。

●過去のバックナンバー

第103号

職域別見守る保育セミナー③

第104号

行事の意義を考える「ひな祭り」

第105号

新宿せいが子ども園成長展

<http://www.caguya.co.jp/topics/news/p9889/>

(報告者：株式会社カグヤ 奥山卓矢)



〒161-0023

東京都新宿区西新宿3-2-11 新宿三井ビルディング2号館10階

Tel:03-5909-7155

毎週月曜日に配信しています。

ミマモルジュメールマガジン発行：株式会社カグヤ 奥山卓矢

ミマモルジュメールマガジン



メールマガジンのご登録は、
QRコードからお願いします。